

海外派遣実績報告書

所属：総合研究大学院大学生命科学研究科生理科学専攻

氏名：原田 卓弥

派遣先国名：ベルギー

派遣先大学：Katholieke Universiteit Leuven（ルーヴァン・カトリック大学）

派遣先大学所属：Laboratorium voor Neuro- en Psychofysiologie

派遣期間：2008年9月15日～2008年10月16日

① 海外派遣先大学について

ルーヴァンというベルギーの小さな市は大学の街と称される学園都市です。その歴史の中でも最も古い大学である1425年に設立したルーヴァン・カトリック大学は、その長い歴史の中で多くの功績を残しています。近年になっても学術分野でその研究功績は衰えることなく、特に科学分野で多くの目覚しい成果を上げています。

② 海外派遣前の準備

丁度論文を投稿し次の実験を始めつつある時で、次の研究に新しい実験手法を取り入れる為のタイミングとして非常に良い時期でした。派遣先の情報はインターネットでよく下調べを行い、また専門分野に関しても派遣先の研究室の論文は勿論のこと、組織や人についての下調べも欠かせませんでした。語学に関してはやや不安がありましたので、総合研究大学院大学の語学教室の参加に力を入れ、またNHKラジオや英語CDを用いたリスニングの練習なども行いました。

③ 海外派遣中の勉学・研究

授業登録はせず、研究活動を行っていました。現地では全て自分から精力的に動き、スケジュールを決めていかなければなりません。最初は語学の問題や研究室への慣れの問題もあり、貴重な時間を無駄にする事もあったと思います。非常に大きな研究室で大きなプロジェクトが複数走っており、また人の入れ替わりが多くありました。また専門の技術員が非常に多く、合理的なスタイルは研究のスピードが日本とは違うという事を感じさせました。

④ 海外派遣中に行った勉学・研究以外の活動

派遣中に4度の週末がありましたが、その際数回、派遣先研究室にイタリアから留学して来られたポスドクの方と一緒にブリュッセルなどの近辺の都市へと足を運びました。また平日にも研究の後に同じ部屋の博士課程生やポスドクの方と、学期始めのお祭りやバーに飲みを誘われて行く機会があり、良い経験が出来たと思います。

⑤ 海外派遣費用について

日程の決定が早かったことを生かし割引運賃を利用する事は出来ましたが、当時の石油燃料費の高騰により渡航費は往復で25万円と非常に高くなってしまいました。訪問先での生活費は当時ユーロが強かった事もあり、思いの外出費が多くなり苦労しました。しかし物価はヨーロッパ圏では安い方であった事もあり、最終的に頂いた予算と奨学金の範囲内に抑える事が出来ました。奨学金は、日本育英会奨学金の支援を受けています。

⑥ 海外派遣先での語学状況

訪問先の研究室はヨーロッパ中から研究者が集まっており共用語として英語が使われていました。私の英語能力は派遣前の TOEIC830 点程で、リスニング・スピーキングを苦手としていた事もあり、派遣前はやや不安に思っていました。実際には、現地での会話は聞き取れずに聞き返す事は多くありましたが、全く理解できずに途方に暮れる事態にはなりません。訪問国の母国語が英語では無かった事も大きかったと思います。

⑦ 海外派遣先で困ったこと

到着してすぐに研究活動に入ったのですが、夜 18 時を過ぎるとほとんどの店が閉まってしまい、日用品・食品の購入が出来ずに苦労しました。都市で無くてもコンビニが 24 時間開いている日本とは違います。足りない日用品は向こうで買おうなどと考えて油断していたのでこの点苦労しました。

⑧ 海外派遣を希望する後輩へアドバイス

私は国際学会の 1、2 度でしか海外に行った事が無く、お世辞にも海外経験の豊富な人間とは言えません。派遣先の研究室には日本人は居ないとも聞いており、派遣前はかなり不安に感じておりました。しかし実際に行ってしまうと大きな問題は無く、多くの事を学べて帰って来る事が出来たと思います。海外派遣を希望する方には同様の不安を感じる方も多いと思いますが、不安を感じる事は悪い事ではありません。むしろ不安を感じ、準備を抜かりなく行う事が重要なのだと、今ではそう思います。